



JSQC ニュース

No.249

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 第77回QCS 品質管理シンポジウム・箱根の開催
- 2-私の提言 ソフトウェアの品質から情報サービスの品質へ
- 2-ルポルタージュ 第88回講演会ルポ(中部)
- 3-社)日本品質管理学会第33年度事業計画/12月の入会者紹介
- 4-研究助成募集のお知らせ/行事案内

第77回QCS 品質管理シンポジウム・箱根の開催

JSQC広報委員会 委員長 山崎 正彦

第77回QCS(品質管理シンポジウム、テーマ:挑戦と創造~グローバル化のもとでの新たなTQMを求め~)が11月27日~29日、箱根・小涌園で130名の参加者を集め、(財)日本科学技術連盟の主催で開催された。今回の主担当組織委員は狩野紀昭氏(東京理科大学教授)で、特別講演、基調講演、発表、グループ討論、総合討論で構成されている。(下図参照)以下、大会で論じられた概要を記す。

1. 新たなTQMで何を実施するか(What)

グローバル化の波が押し寄せ、環境変化が激しくなり“変化から課題への展開”が重要となる。昨今では、日本企業ではコスト削減の課題が大

きく、製造工程を海外へシフトする企業が多いが人件費だけでなく変動費まで含めたコストでは競争力があり、日本での生産に力を入れている企業も多い。これから企業の活動ポイントは「ダントツ商品の企画」「世の中のスピードに対応できるTQMの構築」と思われる。

2. どのように進めるか(How)

商品づくりにはQ(品質)、C(コスト)、D(日程、数量)の同時達成が重要となり中でも、とりわけQが重要となる。このため、C、Dとのトレード・オフの関係にあるが、これを克服するキーは「技術」であり、「コア技術の強化」が重要となる。

更に、QCDを同時達成するために「うまいやり方7ヶ条」の紹介や(第



4班) TQMの効果的推進ツールとして“サイマルエンジニアリング”、“QのみでなくC、DへのFMEA”、“TQM+TPM+TPSの融合”“シックスシグマ”などの手法が提案された。(第5班、松本氏)

3. まとめ

グローバル化のもとでの新たなTQMのポイントは、現場に基づく経営情報の開示(かくさない) 永続的に改善に挑戦 更にスピードが要求される。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるわけでもない。唯一生き残るのは変化できるものである」

-リチャード・ダーウィン-

これらの、強靱なる企業を造るには「企業体質の改善はTQMしかない」という経営陣の強い継続的リーダーシップが必要であることを本シンポジウムを通じて、改めて考えさせられた。

(次回 第78回QCS 平成16年6月3~5日 テーマ:質創造)

第77回 QCSの構成

特別講演:「企業の社会的責任と顧客満足」
 日本アイ・ビー・エム(株) 北島 悟太郎氏

基調講演:「グローバル化における品質管理(TQM)」
 東京理科大学 狩野 紀昭氏

発表

- 発表1:「コマツにおける競争力強化への取り組み」
 (株)小松製作所 板根 正弘氏
- 発表2:「日本化薬における集団創造のすすめ」
 日本化薬(株) 中村 輝夫氏
- 発表3:「アイシン精機におけるTQM推進」
 アイシン精機(株) 安井 勉氏
- 発表4:「経営品質に視点をあてた東芝流シックスシグマ活動」
 (株)東芝 松本 忠氏

グループ討論

- 第1班:トッパサロン「挑戦と創造」
- 第2班:「新たなTQMの進め方」
- 第3班:「新たなTQMにおける新製品開発・新技術開発」
- 第4班:「新たなTQMにおけるものづくり(1)」
- 第5班:「 同 上 (2)」
- 第6班:「新たなTQMにおける人材育成と小集団活動の役」

私の提言

ソフトウェアの品質から情報サービスの品質へ

山梨大学 助教授 渡辺 喜道



10年ほど前に怒涛のごとく押し寄せてきた情報革命の波は社会の古臭い価値観やシステムを洗い流しつつある。こうした変革の中で、世の中の至るところに各種コンピュータ機器が張り巡らされ、ユビキタスコンピューティング環境が現実のものとなりつつある。このように、情報技術（IT）の飛躍的な進展は、我々の生活環境に劇的な変化をもたらし、人々のライフスタイルも様変わりしつつある。その要因のひとつに、インターネットに代表されるコンピュータネット

ワークの急激な発展をあげることができる。換言すれば、ネットワーク指向コンピューティングの時代に突入したということもできる。

こうした変革の中で、ソフトウェアの品質は対照的にあまり変化していないように思われる。したがって今こそ、ソフトウェアに関する品質の考え方を見直す絶好の機会ではないかと思う。つまり、情報化の大波に対して、柔軟に対応できるソフトウェアの品質・サービスの品質が求められているということができる。

しかし、ソフトウェアの品質に関する考え方も決して変化していないわけではない。初期段階では、ソフトウェア（システム）自体の品質についての議論が多かった。その後、

CMMに代表されるようなソフトウェアを作成する過程の品質、ソフトウェア開発プロセスの品質について数多く議論されるようになり、ソフトウェア開発プロセスの考え方が定着したように思われる。今後の課題のひとつは、品質の方向性を予見し、新たなソフトウェアの品質についての枠組みを考えることであろう。

そのキーワードのひとつに情報サービスの品質をあげることができる。多くの利用者がPCやPDA、ケータイ（電話機としての機能の他に情報処理機能を備えた携帯電話）などから、日常的にコンピュータネットワークを通じて、各種コンピュータ機器にアクセスし、電子メールやWebサービス、電子商取引、各種情報サービスを利用している。こうした状況を考慮すると、次の時代に向けて、利用者の視点に立った情報サービスの品質、サービス指向コンピューティングの品質について考える必要性を感じる。

第88回中部
講演会ルポOR, JIMA, JSQCの
3学会で共催

第88回（中部支部41回）講演会が8月26日（火）に名古屋の護国神社に隣接した桜華会館にて、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本品質管理学会の3学会共催で開催された。各学会担当の3講演が下記の如く行われ、約50名の参加者が熱心に聴講し、活発な質疑応答がなされた。

講演1『生産システムとORモデル』（日本OR学会）
名古屋工業大学 ながれ領域

生産システム工学教育類 助教授 中出康一氏
生産ラインにおける、スループットの最大化を第1目的にして、ボトルネックにバッファを配置しボトルネック工程が常に稼働していることが重要であるとの論点で、各種の生産管理モデルについて講演された。

講演2『企業人から見た研究開発型企業の創業・事業モデル』（日本経営工学会）

株式会社応用電子研究所 代表取締役 畑 宏芳氏
企業は経済社会という環境の中に生きる生き物として存在するものである。研究開発型の企業としてどのような理念、ビジネスモデルを確立すべきか、若手経営者の情熱のこもった講演と、得意分野の圧電素子を活用した開発商品のデモがあった。

講演3『マルコム・ポルドリッジ賞の衝撃』（日本品質管理学会）

株式会社リコー CSM本部 審議役 田村 均氏
性能や品質がどの会社のものでも差別化しにくい商品を扱うような時代に、顧客から選ばれるためには、真の顧客満足（CS）を確立すべきである。CSについて、講師が試行錯誤のうへ辿り着いたMB賞の真髓を実例を交えて軽妙な語り口で判りやすく講演された。

近藤正孝（アラコ株）

(社)日本品質管理学会第33年度事業計画

行事 / 月		H15 10月	11月	12月	H16 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
研究発表会	本部								第74回 29日(土)					
	中部											第75回		
	関西												第76回	
年次大会・通常総会			第33回 8日(土) 名古屋工業 大学											第34回 10/30 or 11/6
講演会					本部 16日(金) ガイドライン部 会(大阪電気倶楽部)		第89回 中部	第90回 関西			第91回 中部			
ヤングサマーセミナー												第12回		
シンポジウム		第94回本部 2日(木) 東高円寺 第95回関西 31日(金)					第96回 本部 2日(火)		第97回 中部	第98回 関西			第99回 関西	
事業所見学会	本部					第295回		第297回		第299回				
	中部				第296回 29日(木) 豊田紡織 刈谷工場			第298回		第301回				
	関西					第293回	第294回		第300回		第302回			
クオリティパブ				第38回 10日(水)	第39回 30日(金)		第40回		第41回		第42回		第43回	
その他の行事				TQM 基礎講座 18日(木)	TQM 基礎講座 19日(月)	TQM 基礎講座 12日(木)	TQM 基礎講座 5日(金)	TQM 基礎講座 9日(金)				18AQS 16-18 ニューデリー		
会合 / 月		H15 10月	11月	12月	H16 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
理事会		第340回 22日(水)		第341回 4日(木)			第342回 4日(木)		第343回 14日(金)		第344回 6日(火)		第345回 15日(水)	346回
庶務・会員サービス・ 規定・広報・会計合同委員会		15日(水)	28日(金)			23日(月)			10日(月)	30日(水)			9日(木)	
投稿論文審査委員会		3日(金)	13日(木)	3日(水)	6日(火)	4日(水)	3日(水)	7日(水)	12日(水)	2日(水)	7日(水)	4日(水)	1日(水)	6日(水)
編集委員会		9日(木)		4日(木)	23日(金)		4日(木)		14日(金)	11日(金)	6日(火)		15日(水)	1日(金)
事業委員会		8日(水)	12日(水)	17日(水)	21日(水)									

2003年12月の 入会者紹介

2003年12月4日の理事会において、下記のとおり正会員20名、準会員11名、賛助・公共会員2社の入会が承認されました。

(正会員20名) 加藤 雅彦(岡山県食肉衛生検査所) 鳥内 道夫(竹中工務店) 前川 篤志(オプテックス) 山口 浩(望星築地薬局) 椎名 洋充(日立製作所) 神谷 雅則(ス

タンダード研究所) 濱田 彰(日本電気) 薮 武彦(東芝) 才 雅裕(ナブコ) 家里 誠一(慶應義塾大学) 北野 史典(ジャストシステム) 永井 庸次(日立製作所水戸総合病院) 村上 美好(前・済生会横浜市南部病院) 柳川 達生(練馬総合病院) 鶴 和也 福原 一博(清水建設) 田中 雅人(出光石油化学) 高林 栄(光波) 中澤 輝安(伊藤忠建機) 小野 耕司(テス) (準会員11名) 竹尾 彰倫(青山学院

大学) 木村 哲(山梨大学) 笹木 一麻・塩谷 渉(名古屋工業大学) 足立 康治・市村 淳・今脇 啓吾・亀田 昌宏・玉浦 裕太郎・常見 和史(東京理科大学)

(賛助・公共会員2社2口) (株)ジェーシービー 上武大学附属図書館分館

正会員：3051名
準会員：140名
賛助会員：182社208口
公共会員：22口

事務局からのお知らせ

(社)日本品質管理学会30周年記念事業 第33年度研究助成募集要項

1. 趣旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含まれます。

2. 助成金額

1件10万円 5件以内

3. 期間

1年間（第33年度：平成15年10月から平成16年9月）

4. 募集の対象

選考時に申請者が(社)日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者とします。

- (1)申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。
- (2)申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生。
- (3)申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で(社)日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象

品質管理に関連した研究に対する助成を対象とします。

6. その他の申請条件

- (1)報告書は所定の様式で提出して下さい。
- (2)研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。
- (3)学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

7. 申請の方法

所定の「(社)日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いて下さい。申請書の様式はホームページを参照して下さい。

8. 募集期間、および申請書の提出先

募集期間を平成15年12月から平成16年3月末までとします。

9. 選考方法

(社)日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

10. 決定通知

平成16年4月中に通知します。なお、決定数が5件に達していない場合、追加募集をすることもあります。

11. 申請先 (社)日本品質管理学会事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506 FAX 03-5378-1507

E-mail : office@jsqc.org URL : www.jsqc.org/

行 事 案 内

特別企画：大阪開催（本部）

ISO9001:2000に基づく第三者審査のためのガイドライン説明会

日 時：2004年1月16日(金) 9:30～17:00

会 場：中央電気倶楽部 講堂

プログラム：

オリエンテーション

第1章 審査方法の基本に関する指針

第2章 プロセスに着目した審査技術に関する指針

第3章 品質マネジメントシステムの有効性評価に関する指針

第4章 審査チームに求められる専門知識に関する指針

第5章 審査員個人に要求される品質管理の知識に関する指針

第6章 審査員の力量・適正評価とその活用に関する指針

講演者：福丸典芳氏

(福丸マネジメントテクノ)

中條武志氏(中央大学)

定 員：200名(会員優先)

参加費：会 員5,000円(締切後5,500円)

準会員2,500円

非会員7,000円(締切後7,500円)

学生一般3,500円

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切：2004年1月9日(金)

ISO9001:2000 審査員のためのTQM
基礎講座(本部)

- 毎月1回5回開催・会員優先 -

参加費：各回につき

会 員3,000円

準会員2,000円

非会員6,000円

定 員：毎回先着100名

時 間：毎回18:30～20:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル地下1階講堂

プログラム：

第2回 1月19日(月)

方針管理と改善活動

担当：村川賢司氏

第3回 2月12日(木)

TQMのための手法 - SQCとその活用 -

担当：山田 秀氏

第4回 3月5日(金)

日常管理と標準化、品質保証

担当：棟近雅彦氏

第5回 4月9日(金)

新JISと標準化をめぐる最近の動向

担当：矢野友三郎氏

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切：2004年1月13日(火)

(各回とも締切は開催の1週間前)

第296回(中部支部第71回)事業所見学会

テーマ：環境調和型オイルフィルタの開発
と生産システムについて

日 時：2004年1月29日(木) 13:30～15:30

見学先：豊田紡織(株)刈谷工場

定 員：40名(会員優先)

参加費：会 員2,500円

準会員1,500円

非会員4,000円

学生(一般)2,000円

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上中部支部事務局までお申し込み下さい。折返し、参加要領をお送りいたします。

申込締切：1月15日(木)到着分

第39回クオリティバブ(本部)

ゲスト：日野佳恵子氏

(株)ハー・ストーリィ代表取締役)

日 時：2004年1月30日(金)18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階ラウンジ

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・学生一般2,000円(含軽食・当日払い)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

定 員：30名

行 事 申 込 先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail : apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail : nagoya51@jsa.or.jp